

◆ 公民的分野の重点項目とその系統



章	人権・平和	福祉・社会保障・労働	国際理解・多文化共生	社会参画・公共性	SDGsの達成に向けた持続可能な社会形成	人々の姿
第1章 私たちの暮らしと現代社会	<ul style="list-style-type: none"> 国際協力と互いの尊重 (p.15) 情報社会における課題 (p.17) 世代を超えてともに生きる (p.19) 暮らしの中の文化 (p.20～21) 人が社会をつくる (p.33) 	<ul style="list-style-type: none"> 進む少子高齢化社会 (p.18～19) 地域での情報活用 (p.17) 開発された介護支援ロボット (p.20) 施設を利用する高齢者と保育園児の交流 (p.36) 	<ul style="list-style-type: none"> つながる私たちと世界 (p.14～15) 進化する人工知能 (AI) と変わる社会 (p.16～17) 宗教や芸術の果たす役割 (p.20～21) 伝統文化の継承と文化の創造 (p.22～23) つなげたい、日本の伝統や文化 (p.24～25) 	<ul style="list-style-type: none"> 国際協力と互いの尊重 (p.15) 情報社会における課題 (p.17) 誰もが活躍できる社会へ (p.18～19) ルールについて考えよう (p.28～29) ルールをつくってみよう (p.30～31) 人が社会をつくる (p.33) 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化と国際分業のなかで (p.14～15) 世代を超えてともに生きる (p.19) 豊かな生活を実現するために (p.20～21) 多様な地域文化の保存と継承 (p.22) 地域の教訓を語り継ぐ「奇跡の集落」 (p.24) 受け継がれる京都の景観 (p.27) 	<ul style="list-style-type: none"> 海外で活躍する日本人と日本で暮らす外国人 (p.15) 多世代交流館「になこーナ」での交流 (p.18) iPS細胞の作製に成功した山中伸弥さん (p.20) 熊本地震の復興を願う和太鼓演奏 (p.21) さまざまな「祭り」に参加する人々 (p.23)
第2章 個人を尊重する日本国憲法	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法と個人の尊重 (p.38) 人権の考え方と歴史 (p.40～41) 憲法とはなんだろう (p.42) 平和主義 (p.43) 基本的人権を尊重すること (p.46～47) 法の下での平等 (p.48～51) 差別をしない、させない (p.48～49) 男女共同参画 (p.50～51) 文字を知る喜び (p.52) 自由に生きる権利 (p.54～57) 社会権の保障 (p.58～61) 夜間学級の設置 (p.60) 自ら人権を守るために (p.62～63) 社会の変化と新しい人権 (p.66～67) 人権侵害のない世界に (p.70～71) 私たちと平和主義 (p.72～75) 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人と参政権、公務員への採用 (p.47) 男女雇用機会均等法 (p.50) 障がいのある人とともに (p.51) 不当な差別的取扱いと合理的配慮 (p.51) 経済活動の自由 (p.56) 生存権と社会保障 (p.58～59) ロボットスーツを着て行う介護 (p.59) 労働者の権利 (p.61) B型肝炎訴訟 (p.63) 	<ul style="list-style-type: none"> 人権思想の歴史 (p.40～41) 世界人権宣言 (p.41) 第二次大戦後に成立した各国の憲法 (p.42) 外国人に対する差別 (p.49) 国連の会議に子どもも参加する、ニュージーランドのアーダーン首相 (p.50) 迫害されたユダヤ人 (p.54) 教育費の負担に関する国際比較 (p.61) 世界の女性の国会議員の比率 (p.62) 国際社会における人権の尊重 (p.70～71) ロヒンギャ難民 (p.70) 子どもの権利条約 (児童の権利に関する条約) (p.71) 核兵器廃絶国際キャンペーン「ICAN」 (p.71) 主権国の憲法における平和条項 (p.72) PKO協力法 (p.74) 	<ul style="list-style-type: none"> 人の支配と法の支配 (p.42) 国民主権 (p.44～45) 「いじめゼロ」に向けて話し合う中学生 (p.47) 学校で取り組む人権問題～ハンセン病問題、LGBT (p.52～53) 自由な経済活動と調整 (p.57) 死刑問題について考えよう (p.57) 人権と公共の福祉 (p.64～65) ネット社会で人権を守ることとは (p.67) ディベート「忘れられる権利」を認めるべきか (p.68～69) 	<ul style="list-style-type: none"> 人権思想の誕生と発展 (p.40～41) 生命の大切さ (p.46) 民族共生象徴空間「ウポポイ」 (p.49) 広がる「子ども食堂」 (p.59) 生涯学習、院内学級の授業 (p.60) 環境権 (p.66) 国境を超える取り組み (p.70～71) 平和の構築へ向けて (p.75) 戦争の記憶を語り継ぐ人々 (p.77) 平和への願いをつなぐ子どもたち (p.77) 	<ul style="list-style-type: none"> 「平和の礎」の前で祈る人々 (p.37) 憲法作成に携わったベアテ＝シロタ＝ゴードンさん (p.43) 中学校で講演するハンセン病の回復者 (p.48) 国会で質問する萱野茂さん (p.49) パラリンピアン先駆者 (p.51) 山鹿市の中学生のハンセン病の創作劇 (p.52～53) 「LGBTについて考える会」の中学生 (p.53) ヘイトスピーチに反対する人々 (p.55) 裁判へ向かう堀木フミ子さん (p.58) 養老複合施設での交流 (p.59) 夜間学級の先生と生徒たち (p.60) デモ行進を行う人々 (p.65) ディベートを行う中学生 (p.68) 沖縄戦の記憶を語り継ぐ説明員 (p.77)
第3章 私たちの暮らしと民主政治	<ul style="list-style-type: none"> 多数決と民主政治 (p.85) 18歳選挙権と私たち (p.88～89) 人権の尊重と裁判 (p.104～105) 憲法で保障された裁判に関する権利 (p.104) 中学生の人権と裁判 (p.105) 被疑者・被告人の権利 (p.107) 冤罪と再審 (p.107) 私たちの司法参加 (p.108～109) 刑罰の種類 (p.110) 私たちの暮らしと三権 (p.113) 地方自治と直接民主制 (p.117) これからの地域社会 (p.121) 	<ul style="list-style-type: none"> ワゴン車での移動式投票所 (p.89) 小さな政府と大きな政府 (p.103) 「C型肝炎訴訟」の行政裁判 (p.106) 地域の政治で行うこと (p.116) 地方財政の課題とこれから (p.119) これからの地方自治 (p.120～121) 	<ul style="list-style-type: none"> スイスの直接民主制 (p.85) 過半数を尊重すること (p.87) 各国の選挙権年齢、被選挙権年齢、成人年齢 (p.88) 各国の二院制 (p.97) アメリカの大統領制のしくみ (p.101) 人口10万人当たりの法曹人口比較 (p.109) 外国人の地域への参加 (p.121) 地域から世界へ (p.121) 	<ul style="list-style-type: none"> 人々が参加する政治 (p.84～85) 18歳選挙権 (p.88) 一票の格差の問題 (p.89) マスメディアと公平性 (p.92～93) 行政の効率と公正 (p.103) 私たちの司法参加 (p.108～109) もしも裁判員裁判に参加したら (p.110～111) 民主主義は地域から (p.114) 地域おこしと地方財政 (p.119) 人口の増減率と各地の取り組み (p.120) まちづくりのアイデアを提言しよう (p.122～123) 川崎市市民オンブズマンの役割 (p.122) 「夏休み夢会議」の浜松市政への提言 (p.123) 	<ul style="list-style-type: none"> メディアリテラシーを学ぼう (p.94～95) 成立した主な議員立法 (p.99) 子どもがつくるまち「ミニぶくおか」 (p.114) 各地のさまざまな条例 (p.115) 各地の主な「法定外税」 (p.118) 「ふるさと納税」の返礼品に加わった雪だるま (p.118) 多くの観光客を呼ぶ「田んぼアート」 (p.119) 人口の増減率と各地の取り組み (p.120) 高齢者サービスが充実した地域へ (p.123) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の政治について意見を述べる中学生 (p.81) 演説するリンカン大統領 (p.84) スイスの直接民主制 (p.85) 初めての投票する10代の人たち (p.88) 裁判に関わる人々①裁判官 (p.105) 裁判に関わる人々②検察官、弁護士 (p.106) 無罪が確定した菅利和さん (p.107) 高校生模擬裁判選手権 (p.108) 違憲判決を聞いて喜ぶ人々 (p.112) 「ミニぶくおか」の子ども実行委員会 (p.114) 川崎市の外国人市民代表者会議 (p.121) 地域の将来について話し合う吉和地域の住民 (p.123)
第4章 私たちの暮らしと経済	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の権利と責任 (p.132～133) 製造物責任法 (p.133) クーリング・オフ制度 (p.133) 消費者契約法 (p.133) 悪質商法の例 (p.133) 労働者の権利を守る法 (p.142～143) 外国人労働者、働く女性の問題 (p.145) 	<ul style="list-style-type: none"> 「まごころ宅急便」のサービス (p.135) 車いすバスケットボール用車いすの開発 (p.138) 日本企業が世界で初めて開発した医療機器 (p.139) 働くということ (p.142～143) 安心して働ける社会 (p.144～145) ワーク・ライフ・バランス (p.145) 障がいのある人たちとともに働く (p.145) 所得の再分配 (p.157) 	<ul style="list-style-type: none"> 「ランドセルは海を越えて」キャンペーン (p.141) 日本で働く外国人労働者の問題 (p.145) 世界同時不況 (p.162) 	<ul style="list-style-type: none"> 分業のもつ意味とは (p.128) 契約を結ぶ意味 (p.133) 公企業役割とは (p.138～139) 起業にチャレンジしてみよう (p.146～147) 市場の長所と短所 (p.150～151) 主な公共料金 (p.151) 投資と投機目的 (p.155) 財政が果たす三つの役割 (p.156～157) 租税の効率性と公平性 (p.159) 	<ul style="list-style-type: none"> PL法をめぐって (p.133) 変わってきた流通と消費 (p.135) 株主を招いて行われた、ぶどうの植え付け指導 (p.141) 中学生が立ち上げた株式会社 (p.146) 社会貢献型の投資のしくみ (p.155) 「環境未来税」で運営する蛍光管のリサイクル (p.158) 豊かさとGDP (p.163) 	<ul style="list-style-type: none"> 消費税について学ぶ子どもたち (p.127) 洋食器の工場で働く人々 (p.127) 「物々交換」をする人々 (p.129) 開催された女性のための起業講座 (p.136) 高校生のCEO (p.139) 職場体験で橋の点検作業を行う中学生 (p.142) オフィスで働く高齢者と在宅ワークの女性 (p.144) 起業体験プログラムでの事業計画発表 (p.147) インターネットバンキングの利用 (p.152)
第5章 安心して豊かに暮らせる社会	<ul style="list-style-type: none"> 暮らしの安心を確保するために (p.170) 生存権とセーフティネット (p.173) バリアフリー、ユニバーサルデザイン (p.176) 四大公害裁判 (p.181) 	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの社会保障制度 (p.170～171) 互いに助け合う社会 (p.172～173) 社会保障の維持のために (p.174～175) 暮らしやすいまちづくりへ (p.176～177) 国内外に喜びを届ける会社 (p.189) 	<ul style="list-style-type: none"> ゆりかごから墓場まで (p.173) 介護の現場で働く外国人の実習生 (p.174) 社会保障費の給付と負担の国際比較 (p.175) グローバル化する経済 (p.182～183) 貿易がもたらすもの (p.186～187) リハビリに励むモンゴルの少年 (p.189) 	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの15年を振り返ってみよう (p.168～169) すべての人が生き生きと社会に関わるしくみ (p.170) 暮らしの中の社会保障制度 (p.170～171) 給付と負担のこれからをセルフディベート (p.175) 平等であること、公正であること (p.177) 誰もが「生きづらさ」を感じない社会について考えよう (p.178～179) 	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度 (p.174～175) 社会保障費の給付と負担割合 (p.175) 環境にやさしい路面電車 (p.176) 合理的配慮 (p.176) 循環型社会に向けて (p.180～181) 環境に配慮したコーヒーの容器とストロー (p.182) 地域からの活性化 (p.184～185) 「豊かさ」の変化 (p.185) 	<ul style="list-style-type: none"> 料理作りで交流する高齢者とNPOの人々 (p.167) 伴走者と走る視覚障がいのあるランナー (p.177) 障がいのある人たちのファッションショー (p.177) 移動販売車で買い物をする高齢者 (p.177) ごみの分別に取り組む水俣市の人々 (p.180) 「自伐型林業」に取り組む人々 (p.185) 大漁旗を掲げて植樹する人々 (p.185) 義肢製造の会社を経営する中村俊郎さん (p.189)
第6章 国際社会に生きる私たち 終章 私たちが未来の社会を築く	<ul style="list-style-type: none"> 日本の外交の今とこれから (p.198～199) 国際連合のはたらき (p.200～201) 自衛隊のPKO活動 (p.200) 国際社会における日本 (p.204～205) 核なき世界の実現へ (p.206～207) 終わらない地域紛争 (p.208～209) 安全をおびやかすもの (p.212～213) なくてはならない食糧と水 (p.214～215) 子どもと女性をめぐって (p.216～217) 	<ul style="list-style-type: none"> WHOによる感染症予防薬の投与 (p.200) ユニセフが設立した学校 (p.200) 国連のはたらき (p.201) 算数を教える青年海外協力隊の隊員 (p.204) 日本のODAによる農業の技術指導 (p.204) エボラ出血熱の治療 (p.212) 南北問題、南南問題 (p.212～213) フェアトレード (p.212) マイクロクレジット (p.213) 教育の機会は均等か (p.216) 「児童労働」とはなんだろう (p.217) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本と近隣諸国との外交関係 (p.199) 地域統合の光と影 (p.202～203) 日本の国際貢献 (p.204～205) 世界の文化・宗教をめぐって (p.210～211) 上総掘りの技術支援による井戸掘り (p.215) 日本や国際NGOが開校した学校 (p.217) 	<ul style="list-style-type: none"> 国家と国際法 (p.194～195) 日本の外交政策の基本的な考え方 (p.198) 政府開発援助 (ODA)、青年海外協力隊 (p.204) NGOの役割 (p.204～205) 国際社会の中の宗教問題 (p.211) 世界の中の日本 (p.205) 平和の維持と実現のために (p.207) 立ち上がる人々 (p.217) 	<ul style="list-style-type: none"> 「持続不可能」から「持続可能」へ (p.192～193) カードゲームで持続可能な社会をみぞす (p.193) ユネスコによる世界遺産の修復 (p.200) 軍縮の動き (p.206～207) 国際社会の中の宗教問題 (p.211) 経済格差と国際社会の取り組み (p.213) 人口と食糧の問題 (p.214～215) 子どもと女性の問題 (p.216～217) これからの資源・エネルギー (p.218～219) 地球環境問題 (p.220～221) 持続可能性を妨げる、さまざまな課題 (p.222～223) 私たちが未来の社会を築く (p.227～234) 	<ul style="list-style-type: none"> カードゲーム「2030 SDGs」を体験する生徒たち (p.193) 択捉島での折り紙体験の文化交流会 (p.199) 国際連盟の事務次長を務めた新渡戸稲造氏 (p.200) 広島でスピーチを行うオバマ前大統領 (p.206) 国連難民高等弁務官を務めた緒方貞子さん (p.209) ノーベル平和賞を受賞したマララ＝ユスフザイさん (p.217) 理想のまちについて話し合う子どもたち (p.227) エシカル消費を広げる活動を行う末吉里花さん (p.229)
見返し・口絵	<ul style="list-style-type: none"> 車いすでも利用できる砂浜 (巻末2) 核兵器の廃絶に向けた署名活動 (巻末2) 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防のための水洗い場 (巻末1) フェアトレード生産団体の人々との交流 (巻末1) JICAで働く人からのメッセージ (巻末2) 	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会で活躍する (巻頭1) 伝統・文化・自然を受け継ぐ (巻頭1) 科学・技術が進歩する (巻頭2) 	<ul style="list-style-type: none"> 海岸のごみ清掃 (巻末1) 地震の被災跡地への植樹 (巻末1) アフリカへの食糧支援のための田植え (巻末2) 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統・文化・自然を受け継ぐ (巻頭1) 未来への思いをつなぐ (巻頭2) 持続可能な未来をみぞす人々 (巻末1～2) 	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会で活躍する (巻頭1) 持続可能な未来をみぞす人々 (巻末1～2)